

青年部活動に参加して

庄和商工会青年部 太田綾子  
春日部市米島 1198-57  
第一生命株式会社

皆さんこんばんは。

私は、庄和商工会青年部の太田綾子と申します。

一生涯のパートナー 第一生命保険株式会社 が私の勤務先です。お客様にあった保障をご提案し、多くのお客様をサポートさせて頂いております。

青年部との関りを持ったのは、私の逆ナンが全ての始まりでした。営業活動で外廻りをしている時、休憩中の作業員の方を見つけて、いつものように声を掛けました。保険をご提案する中で、いろいろお話をさせて頂きましたが、気が付くと話題は青年部の話に…。立場は逆転し、私が青年部の勧誘を受けていました。

『商工会青年部』、その言葉は私にとって、初めてに等しいものでした。私は個人事業主ではありますが、会社に所属している為、商工会、ましてや青年部の存在すら知りませんでした。イメージと言われても全く想像することができませんでしたし、どんな団体なのかも知りませんでした。そうして何もわからないまま、気付いた時には私はペンを持ち、加入申込書へ記入をしていました。

青年部として初めての一步を踏み出したのは、月一回開催される常任委員会後の懇親会でした。懇親会の席で、私は参加者一人一人に名刺を配って歩き、保険の話、メンバーの事業所の話をさせてもらったのを今でも鮮明に覚えています。『名刺が配れる！』と思って参加した懇親会、私は仕事の延長という考えのもと、この懇親会に参加をしていました。

入会して間もなく、異例ではありましたが、常任委員会の一員に加えて頂くことになりました。入部したばかりの私が！？と、と同時に、常任委員会…？なに？何もわからずに研修委員副委員長に就任。大きな声では言えませんが、年齢の関係で卒業まで時間がなかった為、このような流れとなったそうです。これが庄和商工会青年部のやり方です。

しかし、これから青年部活動を知ろうと思った矢先、新型コロナウイルス感染症によって世界中が混乱し、一瞬にして全ての動きが止まってしまいました。今まで経験したことのない、制限のある生活が始まりました。

緊急事態宣言の発令に伴い、青年部活動も停止状態。あらゆる会議がリモートとなり、意見交換するのももどかしく感じました。

会議を重ねても実際に行える事業は少なく、ただただ時間ばかりが過ぎていきました。そして半年が過ぎた頃、世の中がコロナと向き合い始めたと同時に、常任委員会も対面形式に戻りました。

初めて参加した対面形式での常任委員会、1つの議題に皆が積極的に自身の考えや意見を発している事に大きな衝撃を受けました。私は会社という組織に属している事から、積極的に自分の意見を発する習慣が今までなかった為、真剣に交わされる議論に付いて行くのがやっとの状態。懇親会などで見ていた青年部とは違い、これが本当の青年部なのだと初めて感じた瞬間でした。

会議の主な議題は、コロナ禍の中で青年部としてどのような活動ができるのかが、大きな議題でした。通常の青年部活動というものを知らない私にとって、自分はどう考えているか、そして本当に意見を発して良いのか、戸惑いを感じながら二回、三回と会議へ参加していきました。

そんな状況が数ヶ月続く中、特別何か大きな事業があったわけではありませんが、会議などの限られた交流を通して、メンバーの人柄にふれ、人と人とのつながり、助け合い、今までに経験した事のない関係性を大切にしていきたいと考えようになっていました。

その中でも、唯一行えた事業は『まちなかイルミネーション』という事業でした。

この事業は、東武アーバンパークライン南桜井駅の北口と南口を、イルミネーションでライトアップする事業となります。地元庄和高校美術部の皆さんがデザインした物を、我々青年部が製作して形にしていく、共同の企画です。

この事業に始めて参加した一昨年は、当時の部長の先導のもと、私は製作する作業部員の一人として、製作に携わりました。製作に関して全くの無知な私は、メンバーから指示をもらいながら、木材を加工したり、色塗りをしたりと、普段やったことのないことの連続でした。夏頃から約三か月の期間で、製作物は完成。11月の下旬に設置日を迎えました。現地で製作物が組み上がっていく過程を見ながら、平日の仕事終わりにたくさんの時間を費やして製作したこと、仲間と制作作業に打ち込んだ全てが、このイルミネーションの光になっている事にとっても感動したのを今でもはっきりと覚えています。

設置から2週間後、いよいよ点灯式を迎えました。コロナ禍の関係で盛大な点灯式は開催出来ませんでしたが、南桜井駅に灯ったイルミネーションは、冬の寒い夜を暖かくしてくれました。駅から出てきた人たちが、地元に戻ってきたな、ホッとすると、そんな風に感じてくれたら幸せだなと思っています。

そしてイルミネーションが灯り始めた頃、私にとって大きな出来事が起こりました。それは、

来期の部長就任のお話でした。まだ青年部に入部して何も経験していない私に、そんな大役が勤まるのだろうか？この個性豊かな部員のみんなをまとめることができるのだろうか？親会や交流団体の方は、こんな私を認めてくれるのだろうかととても悩みました。

その中で私が前向きに考えられたのは、短い期間で青年部のメンバーからたくさん刺激を受けたことでした。会社に属している私には出来なかった事、自分の意思を積極的に伝える、そんな自分になれるチャンスなのかもしれない。

私は、埼玉県初の女性青年部長という大役を引き受ける事としました。

これが庄和商工会青年部のやり方です。

今、部長になって一年が過ぎました。コロナ禍が続く中、通常大きな事業は開催出来ず、不完全燃焼の一年でした。しかしこの中でも、今できることはないのか？部員のみんなと知恵を絞りながら開催したのがAED講習でした。コロナ禍だからこそ思いついた事業です。私の大切な人に万が一のことが起きた場合、自分は何ができるのだろうか、そんな考えからこの企画が始まりました。この講習で分かったことは、AEDは簡単に取り扱えるものではないということです。使い方そのものは難しくありません。一番難しいのは、いざその時になったら冷静に判断をし、周りへの協力をお願いすることや、協力者への指示ができるかどうかです。

この講習会でAEDや心臓マッサージの事を学びましたが、もう一つ感じたことがありました。それは青年部に入って良かったと思えたことです。青年部に入る前の私と、今の私、まだまだな部分がありますが、青年部で自分の意思を発信できるようになってきたと思っています。この経験が、いざ応急処置が必要となる場面に居合わせた時、自分の意思をはっきりと伝え、目の前の命を救うことに役立てるかもしれない。そんな気持ちになりました。きっと、青年部の活動が直接これらの事に関わっていなかったとしても、今の自分だからできる事なのではないかと思っています。

青年部に入って、チャンス場を多くもらえたことに本当に感謝しています。

部員歴の浅い私自身、経験不足も多々あり、まわりの皆のあたたかい心とサポートを受けながら、なんとか部長職が成り立っています。

逆ナンしてこの青年部に入会した事で、たくさんの仲間と出会い、たくさんの方の意見や考え方にふれる事ができました。職業、年齢、性別を超えた付き合いがあるから、経験できた事だと思います。

商工会青年部は、自分の考え、思いを伝える事の大切さ、人とは違う意見を言う勇気、そし

てそれらを受け入れる器をもつ事、組織の中で働く私自身を大きく成長させてくれました。

素敵な仲間との出会いがあり、新しい自分を見つけるきっかけとなった二年半前の私の逆ナンは、大成功です！！

ご清聴ありがとうございました。